

## コミュニティ・スクール情報

2022. 12. 16



令和4年12月1日(木)  
9:30~11:30  
横山小学校 集会室

- ◇授業参観  
(新型コロナウイルス感染拡大で中止)
- ◇協議会 9:30~11:30

## 1. 学校運営状況の説明 (渋谷 譲 校長)

- 11月10日に公開研究会を開催し、三川町内の保育園・幼稚園、各小学校、三川中学校の先生たちから学校の様子を見ていただき指導してもらった。公開研究は無事に終えることができたが、その一週間後から新型コロナウイルス感染が校内で広まり始め、さらに一週間後に学年閉鎖にいたるほど感染が拡大しているため、今日の授業参観を取りやめにさせていただいた。
- 職員のなかで養護教諭の産休、特別支援学級支援教員の配置で2名の職員を新たに迎えている。
- 9月には全校で3年ぶりに「稲刈り体験」を実施した。地域の方も10数名参加いただき交流を図ることができた。
- 「こころやさしい子ども」の育成に関わり、縦割り活動に力をいれてきた。9月になかよしディーの実施。縦割りグループでの交流は6年生が上手にリードしている姿が見られた。雑巾がけリレーやじゃんけんで負けた人が新聞紙の陣地を失っていく勝負などを行った。11月に予定していたリーディングボディは、2人組(上級生と下級生)による活動を企画していたが、新型コロナの拡大で様子見をしている。12月は縦割りグループでの長縄飛びを予定しているが延期している。これらの活動は、お世話をする子とされる子という関係の中でリーダー性の育成や自己肯定感の育成につながる取り組みと考えている。心を育てる活動の一環でボランティア活動にも取り組んでいる。空き缶回収による収益を南三陸町の復興支援の一部にしている。また、4年生はキャップ回収を行ってアフリカの国々の子どもへのワクチン接種に協力している。
- 「地域とともにある学校」に関わることとして、地域と共にどのような子を育てたいかを明確にし、学校だよりやPDFで保護者に配信し、地域に対しては全戸へ紙面で配布している。また、校長室前の掲示板には、これまでの行事等の写真を掲載し、地域だけでなく子どもたちにも「地域とともにある学校」ということ意識づけとなっている。
  - ・行事の精選ということで、今年はできなかった相撲大会のあり方について、実行委員会でも検討している。特に話題となった「まわし」の付け方については、簡易的なまわしの導入も含め検討している。
  - ・修学旅行について、今年は、南三陸町とリナワールドであったが、学びの多かった南三陸町はよしとすると上山までの移動時間が課題として考えられる。来年度は、南三陸と仙台という方向を視野にいれている。
  - ・今年度の学校祭は3学年単位で実施した。(昨年は2学年単位)学校祭の後に収穫祭の実施は厳しい。田植え稲刈り、収穫祭の意義を理解はしつつ、保護者へのアンケート等を参考に考えていきたい。
  - ・3年生が地域学習で、旧横川小学校を訪問。獅子舞の伝承。御神楽の伝承。地域の方の協力や社会教育係の協力を得て実施できた。
  - ・生産者訪問として、給食の地産地消で野菜農家の渡部さんや有機米農家の須藤さんからお話を伺うことができた。
  - ・東田川の郵便局長会での環境整備をはじめ、地域の方が関わっていただいで環境を整えることができた。
- 「よくからだをきたえる子ども」にかかわって、自分の記録への挑戦ということで持久走大会から持久走記録会の実施。縄跳びの実施。また、「よく食べる」ということについても大切に考えている。

- 自分たちで創り上げる学校祭。各学年が工夫しながら上級生になればなるほど主体的に発表し実施できた。
- 特別支援学級の交流（三川町小中学校）をアスレ菜の花で行った。外に出て行くよい機会につながった。
- 「まなびにはげむ子ども」にかかわって、公開研究会に向けた取り組みや読書活動への取り組み。学力向上に関わることとしては、教えて考えさせる授業。学校全体のアクションプランの作成。高学年での教科担任制の導入。（6年生37名を2グループに編成し、各グループを2名の教員が指導）  
器械体操の齋藤先生を招聘しての授業。消防本部による防災教育の実施など外部指導者による授業を実施。
- 読書好きな児童を育てるための保護者による読み聞かせや、6年生の担任が3年生に本を読んでやる取り組みで、普段と異なる環境で読書への関心を引き起こす取り組みを行った。
- 「魅力ある学校づくり」の取り組みに関わって、7月実施のアンケート結果をみると、「授業に主体的に取り組む」が35.5%から43.5%。授業がよくわかるが46.4%から56.5%。自己肯定感が46.7%から54.0%と、今年の3月より高い数字になっている。12月の結果をみながら、一人ひとりの学習理解を重視しながら今後の取り組みを検討したい。
- 「いじめ」の認知件数。1学期60件。2学期51件。ひやかし、からかい、脅し文句、嫌なことを言われるなど些細なことではあるが、きめ細やかに指導を繰り返していきたい。
- コロナ禍での対応策。情報の共有に関わることやオンライン授業環境など、今後も保護者と連絡を密に取りながら対応をしていく。

## 2. 学校運営状況に関わって（委員の方より）

- 丁寧な説明ありがたい。また、子どもたちへのポイントを押さえながら、子どもを大切にされた細やかな指導に感謝したい。先生たちの努力にも感謝したい。
- 相撲の土俵入りをテレビで見たが壮観だった。
- 「いじめ」の問題にかかわって、喧嘩は対等的。いじめは一方的という認識があるのだが。  
（校長）県の方針では、喧嘩もいじめ件数のなかに含まれている。「いじめ」調査を「仲良くしていくための調査」と考えて対応している。丁寧に話しを聞き対応している。
- 親もいじめをなくす輪の中に入っていることがありがたい。  
（教委）国では、いじめの積極認知により「いじめの見逃し0」を目指している。横山小では子どもからの訴えをしっかりと受け止め、丁寧に対応している。いじめをした人された人への指導はもちろん、双方の保護者とも連携をとり、きめ細やかな対応をしている。
- 不登校児童は多くなっているのか。  
（教委）三川全体で数名。いじめが原因というよりは、家庭環境や発達障害、情緒的なことが起因となっているようだ。横山小では、保護者と連携しながら、児童と学校とのつながりを切らさないようにしながら、児童が学校に登校できるように丁寧な対応を行っている。
- 気になる「暴言や暴力にいたる」子どもとそれをみている子への対応。  
（校長）親御さんを交えて子どもの成長を見ていきたい。また、学校では支援員等を活用しながら察知能力を生かし対応していきたい。
- コロナ禍での危機管理。リモート授業などの対応ありがたい。先生方の感染等に対応し、町内の小学校から協力を得たりするようなことはできないのだろうか。

## 3. 町民運動会にかかわって

- 元のかたちに戻して実施する方向であってほしい。地域の人と接する機会。顔を知る機会。
- 持続可能な方法を考え継続。
- 「三川音頭」など学校から地域での指導へ。

## 4. 「子どものスポーツ・文化活動の素地をどう育てるか」についての話し合い

- 低学年では、楽しい、あこがれなど、関心や興味を抱かせる体験的機会を重視。
- 高学年では、夢への可能性を抱かせる場の設置と考えていきたい。

委員会が考えている新組織の説明（教委）

